

—— 奈良県小学校教育課程研究集会
小学校外国語部会

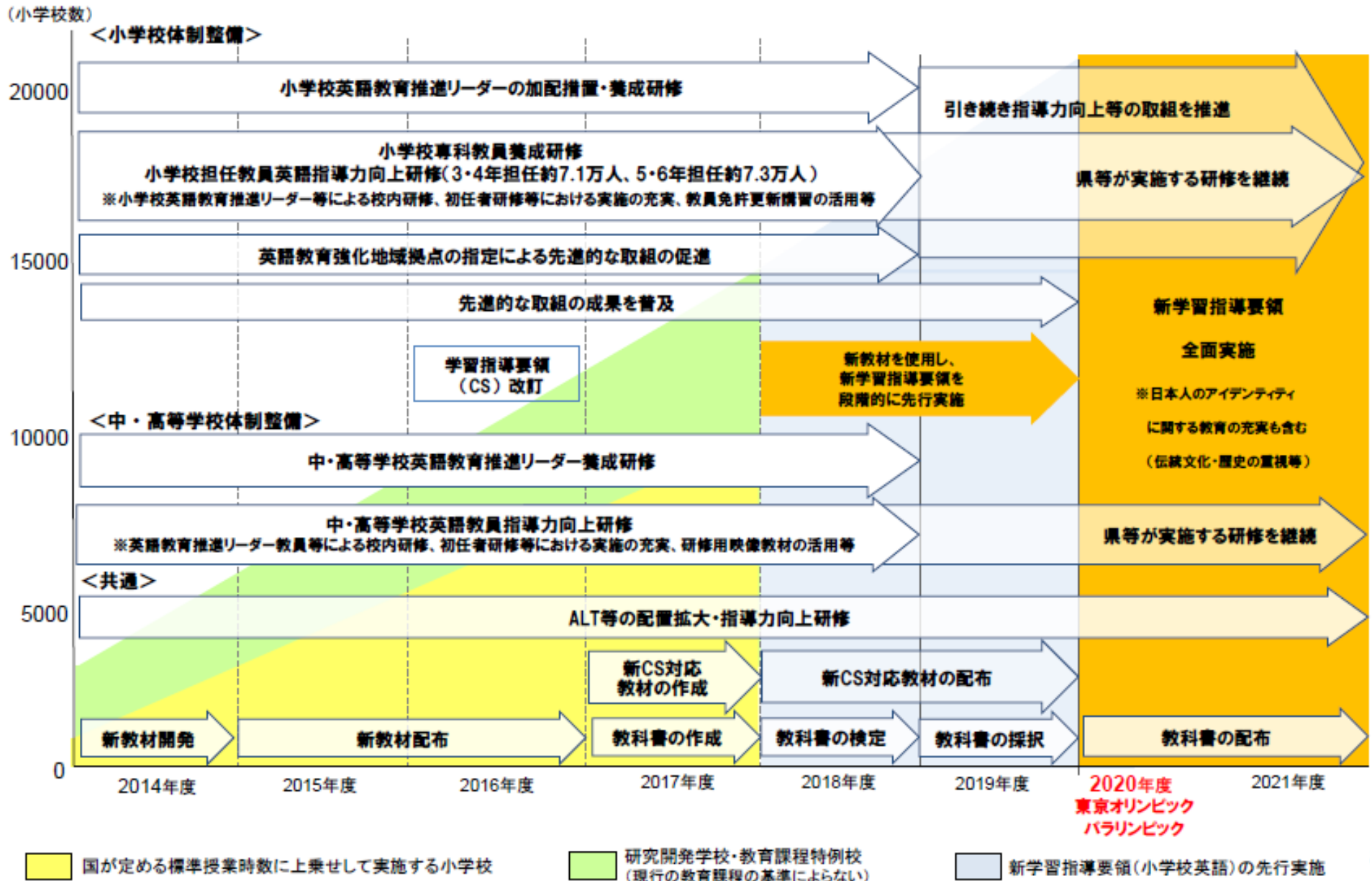
学習指導要領改訂と
英語教育改革の動向について

奈良県教育委員会事務局学校教育課 指導主事 藤井 仁

平成28年8月10日（水）

1 次期学習指導要領改訂の方向性

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール（文部科学省）



1 次期学習指導要領改訂の方向性 – 何を学ぶか

CEFR

B2

B1

A2

A1

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編纂のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

英語教育の抜本的強化のイメージ

※具体的な小学校の授業時数については、年内～年明けを目途に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

新たな英語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力を伸ばす基礎を確実に育成

高校卒業レベルで3000語

高で1800語

中で1200語

現状

【高等学校】

- 目標：コミュニケーション能力を養う
- 授業は英語で行うことが基本
- 国の目標（英検準2～2級程度等50%）
→現状32%
 - ・生徒の学習意欲、「書く」「話す」に課題
 - ・言語活動が十分でない

【中学校】

- 教科型を通じた4技能の総合的育成
- 目標：コミュニケーション能力の基礎を養う
- 前回改訂で週3→週4に増
- 国の目標（英検3級程度等50%）→現状35%
 - ・言語活動が十分でない

年間140単位時間（週4コマ程度）

- 活動型 【小学校高学年】 年間35単位時間
- 目標：「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心に指導
- 外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も高めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

年間35単位時間（週1コマ程度）

【高等学校】

- 目標例：例えば、ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする
- 授業を英語で行うことを基本とするとともに、①4技能を総合的に扱う言語活動、②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実（発表、討論・議論、交渉等）

高等学校基礎学力テスト（仮称）
改善のためのPDCAサイクル

【中学校】

- 目標例：例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする
- 身近な話題について理解や表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする

4技能学力調査
改善のためのPDCAサイクル

年間140単位時間

教科型

【小学校高学年】

【小学校】

- 目標例：例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする
- 「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。
- 学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用

教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」としてモジュール学習も活用

年間70単位時間 ※

活動型

【小学校中学年】

- 目標：「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導

年間35単位時間 ※

【小学校高学年】 **教科型** 年間70単位時間

単元目標の例：馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする。

○「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。

○ **学級担任**が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用する。

教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」として**モジュール学習**も活用する。

【小学校中学年】 **活動型** 年間35単位時間

○「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の**素地**を養う。

○主に**学級担任**がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導を行う。

【中学校】

単元目標の例：短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする。

○ 身近な話題についての理解や表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする。

【高等学校】

単元目標の例：ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。

○ 授業を英語で行うことを基本とするとともに、①4技能を総合的に扱う言語活動、②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実(発表、討論・議論、交渉等)する。

外国語活動・外国語科 「見方・考え方」 外国語WG 6/20案

「社会や世界、他者との関わりの側面から言語を捉え、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、**コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語を聞いたり読んだりして情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること**」

1 次期学習指導要領改訂の方向性 – 何ができるようになるか

小学校【外国語活動】 育成すべき資質・能力の三つの柱（外国語WG6/20案）

中学年 活動型

◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための活動を通して、**聞いたり話したりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地**となる資質・能力を次のとおり育成する。

①【知識・技能】 外国語を用いた**体験的な活動を通じて**、言語や文化について**体験的に理解を深め**、日本語と外国語の音声や語順等の違い等に気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。

②【思考力・判断力・表現力等】 外国語を通じて、身近で簡単なことについて、**聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う**力を養う。

③【学びに向かう力・人間性】 外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、**聞き手・話し手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。

小学校【外国語科】 育成すべき資質・能力の三つの柱（外国語WG6/20案）

高学年 教科型

◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、**聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成する。**

①【知識・技能】 外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読むことと書くことに慣れ親しませ、**外国語の音声、語彙・表現を聞くことと話すことを用いて、実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。**

②【思考力・判断力・表現力等】 外国語を通じて、身近で簡単なことについて**読んだり書いたりすることに慣れ親しませながら、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことのうち、特に聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。**

③【学びに向かう力・人間性】 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、**相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

「深い学び」の過程

言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を4技能において実際のコミュニケーションで運用する技能を習得し、**実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりする**中で、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、**コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に**応じた**言語活動**を効果的に設計することが重要である。

(小学校 外国語)

○具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができる能力の育成

→児童が外国語を用いてコミュニケーションを体験することが求められる。そのためには、児童が**興味関心のある題材**について**自分の思いや考えを伝え合う活動**の設定が重要である。

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

「対話的な学び」の過程

他者を尊重し、対話的な学びを通じて社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、次期改訂においては、言語の果たす役割として**他者とのコミュニケーション（対話や議論等）**の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、創造的思考とそれを支える論理的思考、感性・情緒を育成する観点からも求められる資質・能力が明確になるよう整理することを通じて、外国語教育の改善・充実を図る。

（小学校 外国語）

- 身近で**簡単な話題**について友人に**質問したり質問に答えたりする能力の育成**
- 相手に配慮して外国語を用いて**コミュニケーションを図ろうとする態度の育成**

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

「主体的な学び」の過程

外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会・世界と関わり、生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり、評価したりするために、自らの学習活動を振り返って次の学習につなげることが重要である。このため、外国語教育においては、この学びの実現に向けて、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

小学校中学年における外国語活動と高学年における教科化の必要性について

文部科学省中央教育審議会 第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料

- 前回改訂において、中学校における4技能を通じた学習の素地として、「聞く」「話す」の2技能を中心に小学校段階でコミュニケーション能力の素地を養うため、「外国語活動」（年間35単位時間）が創設された。
- その後の「外国語活動」の充実により、児童の高い学習意欲、小学校で外国語活動を経験した中学生の成果や変容、指導に当たる教員の肯定的な捉え方といった成果とともに、教育課程の特例を活用して小学校低学年・中学年から外国語活動を取り入れることにより、中学校とのカリキュラム上の接続を意識した先進的な事例の成果が得られるなど、外国語活動を通じた学習の成果が認められる。
- 一方で、児童の「読む」「書く」も含めた更なる言語活動への知的欲求が高まっている状況にある。例えば、中学生1年生の8割が、外国語活動で「英単語・英文を読む」「英単語・英文を書く」ことをもっとしておきたかったと回答するなど、(1) 小学校の外国語活動において音声中心で学んだことが、中学校での段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、(2) 国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴（つづ）りの関係の学習、文構造の学習において課題があること、(3) 高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり体系的な学習が求められることなどが課題として指摘されている。

2 中学年での外国語活動の開始と高学年での教科化について

- こうした課題に対応するためには、現行の成果も踏まえつつ、中学年から外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、「聞く」「話す」の2技能を中心に外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて4技能を総合的・系統的に扱う教科学習が必要である。
- また、教科として系統的に学ぶことにより学習内容の定着を図る英語教育の充実には、言語能力を向上させ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成や、国語を学ぶことに対する関心の向上にも大きな効果がある。
- 言語能力の向上に関する議論を踏まえつつ、外国語教育としては、他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する側面を、資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、他の側面（創造的思考（とそれを支える論理的思考）、感性・情緒等）からも育成すべき資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、外国語教育を更に改善・充実することが必要である。
- このため、各学校段階を通して言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。あわせて、身近な話題から幅広い話題について理解したり、情報や考えなどを伝え合ったりすることができる能力を養うため、小学校段階では、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成などを掲げつつ、目標、指導内容、学習・指導方法、学習過程、学習評価等の在り方について検討する。

「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告(概要) 小学校高学年教科としての目標イメージ

外国語活動

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

小高学年教科

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

中学校

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告(概要)

小学校高学年教科化における4技能(「聞く」「話す」「読む」「書く」)の目標イメージ

(1) 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。

(2) 身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

(3) アルファベットや単語に慣れ親しみ、英語を読むことに対する興味を育てる。

(4) アルファベットを書くことに慣れ親しみ、英語を書くことに対する興味を育てる。

小学校高学年（外国語）の指導内容

- 文部科学省中央教育審議会、第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料
- 教科としての外国語教育のうち基礎的なものとして、中学年からの高学年及び中学校への学びの連続性を持たせながら、これまでの体験的な「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」の4技能を扱う言語活動を通じて、より系統性を持たせた指導（教科型）を行う。その際、外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う体系的な指導を行う教科として位置付ける。
 - 教科として位置付ける際、単に中学校で学ぶ内容を小学校高学年に前倒しするのではなく、身近なことに関する基本的な表現による4技能の豊かな言語活動を行うため、発達段階に応じた「読むこと」、「書くこと」に慣れ親しみ、積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする態度の育成を含めた初歩的な運用能力を養うことが考えられる。
例) 馴染（なじ）みのある定型表現を使って、自分の好きなものや家族、一日の生活などについて、友達に質問したり、質問に答えたりすることができる。
 - 言語能力向上の観点も含め、文構造など言葉の規則性に関する気付きを意図的に促す指導や、文字の認識、単語への慣れ親しみも加えることで、発達段階に応じて、知的好奇心に応えるものとする。例えば、
 - (1) アルファベットの文字や単語などの認識
 - (2) 国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き
 - (3) 語順の違いなど文構造への気付き等を促す指導を行う。
 - 国語教育をはじめ他教科等と関連付けた学習内容や言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力や主体的に学習する態度を身に付けることも重視する。
 - 教科として評価する際、英語嫌いにならないようにするため、外国語を読んだり、書いたりすることなどを通して、言葉の仕組みの面白さなどに気付きながら活用しようとする意欲や態度をより適切に評価できるようにすることが重要である。

小学校中学年（外国語活動）の指導内容

文部科学省中央教育審議会 第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料

- ・外国語学習への動機付けを高めるため、体験的に「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて、発達段階に適した形で、言語や文化について体験的に理解したり、音声等へ慣れ親しんだりする。
- ・このため、中学年では、言語や文化についての体験的理解や、外国語の音声等への慣れ親しみ、コミュニケーションへの積極性を中心とする「外国語活動」（活動型）を行い、コミュニケーション能力の素地を養うこととする。
- ・指導内容・方法や活動の設定、デジタル教材を含めた教材の工夫、他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めることが必要である。

高学年における外国語の教材

アルファベットの文字の認識

→アルファベットの文字を認識する教材

日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き

→アルファベットに音があることに気付く教材

→アルファベットの音を認識する教材

→単語を認識する教材

文構造への気付き

→これまで聞いたり言ったりしてきた表現を可視化した教材

中学年における外国語活動の教材

コミュニケーション能力の素地を養う

外国語への慣れ親しみ

言語や文化への気付き

コミュニケーションを図ろうとする関心・意欲・態度

→同じような表現を繰り返し聴く教材

→表現が使われている場面がすぐに分かる教材

→先生や友達とともに学習し、楽しめる教材

→高学年の学習につながる教材

→中学年の発達段階に合った教材

Hi friends!との関連

- 現在、高学年における外国語活動では、「Hi, friends!」が96%の学校で活用されており、これまでの成果・課題を生かすことを前提とし、小学校教員の理解・共有を図る観点から、今後の高学年における教科型の指導においては、「Hi, friends!」の単元構成などの基本的な枠組みをもとに年間70単位時間分の系統的な教科としての学習内容を設定し、具体的なイメージを共有しながら検討することが必要である。

短時間学習等の活用、柔軟なカリキュラム設定に関する考え方

文部科学省中央教育審議会 第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料

○これまでの成果・課題を踏まえつつ、教育課程全体の枠組みの状況を考慮すると、小学校高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、ICT等も活用しながら10～15分程度の短い時間を単位として繰り返し教科指導を行う短時間学習（帯学習、モジュール学習。以下「短時間学習」という。）を含めた柔軟なカリキュラム設定の在り方と必要なカリキュラム・マネジメントを検討する必要がある。

・従来は、短時間学習を授業時間外の扱いとし、授業内容との直接的な関係性を教育課程に位置付けていないことが多かったが、今後、外国語の特性を踏まえた指導内容のまとめりや教育効果を高める観点から、短時間学習を行う場合には、学習指導要領上の標準授業時数内で、その時間を年間授業時数に含め、その目標を明確にし、まとめりのある授業時間との関連性を確保した上で実施することが必要である。

・短時間学習を効果的に位置付けるため、その目的・実施のねらい、中心となる45分授業とそれを補完する短時間学習との関係性を明確にしたカリキュラムや、両者における指導の順序性などを明確にしていくことが必要である。

短時間学習等の活用、柔軟なカリキュラム設定に関する考え方

文部科学省中央教育審議会 第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料

- ・前述の全国の小・中学校における短時間学習の状況の調査結果によると、算数、国語の学力向上を目的とする計算ドリルや読書活動など、授業時数内外で様々な教科も含めた取組が行われており、実施状況は様々であるため、全ての小学校において、外国語に特化した短時間学習を一律に行うことは困難な状況にある。このため、年間70単位時間における一定の短時間学習の在り方を横並びで求めるのではなく、ある場合には45分授業を60分授業の扱いにして、その中の15分を短時間学習として位置付けることや、また別の場合には外国語の短時間学習を2週間に3回程度実施する、さらに別の場合には夏季、冬季の長期休業期間において言語活動を行うなど、地域や各校の実情に応じた幅のある柔軟なカリキュラムの設定が必要であると考えられる。
- ・外国語教育の特質に応じ、まとまった時間を活用して言語活動を行うことなどが効果的な場合には、夏季・冬季休業や、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができるような方向性を検討し、各校の取組に柔軟な対応が可能となるようにすることが必要である。

(例) 短時間学習や柔軟なカリキュラム設定等のイメージ

- ・45分授業との関係を明確にした一定の効果が得られる15分程度の「繰り返し学習」などの短時間学習
45分+15分などの組合せにより、深みのあるコミュニケーション活動の設定などの組合せも可能となる指導
- ・イングリッシュ・キャンプ、補習などの夏季、冬季の長期休業期間における活用等

小学校教員向け

2016 年度 第 1 回検定

英検

後援：文部科学省

「英検 検定料 助成制度」のご案内

公益財団法人 日本英語検定協会

公益財団法人日本英語検定協会は、文部科学省が発表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、その施策に協力する形で、小学校教員を対象に、実用英語技能検定(英検)を教員特別検定料にて提供します。

貴校の教員の英語力向上に向けて、この機会に是非、英検を有効にご活用ください。

記

■ 1. 助成の対象となる試験

実用英語技能検定 (英検)

■ 2. 対象となる級および小学校教員特別検定料 ※どの級でも選択いただけます

	1 級	準 1 級	2 級	準 2 級	3 級	4 級	5 級
助成価格	4,000	3,000	2,900	2,300	1,600	1,300	1,300
定価	8,400	6,900	5,800	4,500	3,200	2,600	2,500

■ 3. 助成の対象者

学校教育法第 1 条に規定された学校のうち、日本国内の小学校に勤務する教員の方。

(常勤・非常勤問わずご利用いただけます)

※海外校勤務の方はご利用いただけません。

子どもたちのために、こんな授業を

- ・自信をもって自分の考えや思いを発表できる授業
- ・興味や関心を引き起こす授業
- ・児童が主体的に学習に取り組む授業
- ・児童同士が関わり合う授業
- ・笑顔や言葉が飛び交う授業
- ・学習内容をわかりやすく理解させる授業
- ・しっかりと発問や指示が伝わる授業
- ・毎時間の学びを積み重ねられる授業
- ・最後まで集中して取り組める授業
- ・様々な児童の学び方に合わせた授業

小学校外国語活動を担当する教員として

- ・クラスルーム・イングリッシュを使ってください。
- ・授業での日本語を減らしてください。
- ・授業が英語を使ったコミュニケーションの場となるよう、言語活動を工夫してください。
- ・単元での授業設計をしてください。
- ・指示だけでなく、先生の思いも英語で伝えてください。
- ・チーム学校として、英語教育を推進してください。
- ・中学校との連携を進めてください。